



再生可能エネルギー普及制度の改革を通じて「エネルギー大国日本」を実現!

エネルギー政策グループ



ライフプランは人それぞれ。個人が働き方を選択できる環境で働きたい!

働き方改革グループ



もう先延ばしはできない。マイナンバーを活用して、持続可能な医療を目指す!

医療制度改革グループ

# ジュニア・アカデミア2期生が政策提言

## 大賞は「教育改革」グループが受賞



働きながら子どもを育てたい人にとって、東京は生きづらい。職住近接を実現し、3000万人の時間を取り戻せ!

茂木賞 都市創生(私たちが考える「東京大改革」)グループ



充実した幼児期の教育は、強い次世代を作る。「幼児学校」の創設を!

ジュニア・アカデミア賞(大賞) 教育改革グループ



アニメだけが日本文化ではない。日本の映像コンテンツを戦略的に海外へ広めたい!

牛尾賞 ソフトパワーグループ

※当日は佐々木毅・日本アカデミア常任塾頭より審査、表彰をいただきました。

### ジュニア・アカデミア2期生 (大学名・氏名50音順)

※所属・学年は第2回政策提言発表会開催時(2017年3月13日)

お茶の水女子大学		上智大学	
小澤 萌々子 (文教育学部1年)	折野 優 吾 (法学部2年)	兼子 敦 郎 (外国語学部3年)	小嶋 裕 子 (総合グローバル学部2年)
後藤 里 保 (文教育学部1年)	新倉 美 菜 (国際教養学部4年)	志田 沙 理 (生活科学部4年)	西野 真 優 (総合人間科学部3年)
澤井 陽 葵 (生活科学部2年)		島田 萌 夏 (生活科学部2年)	
遠山 南々 (生活科学部1年)			

学習院大学		津田塾大学	
石月 愛 梨 (法学部3年)	喜多 萌 子 (大学院1年)	得田 真実子 (学芸学部4年)	得田 和 都 (学芸学部4年)
佐藤 佳 奈 (法学部3年)	名 波 和 都 (学芸学部3年)	高 角 沙 絵 可 (学芸学部3年)	
筒井 麻 耶 (法学部3年)			
森田 曜 光 (法学部3年)			
柳 沢 高 央 (法学部3年)			

慶應義塾大学		一橋大学	
角 間 謙 一 (総合政策学部3年)	安 藤 仁 美 (経済学部3年)	榎 戸 さくら (経済学部3年)	森 山 真 衣 (経済学部2年)
清水 祐 弥 (経済学部3年)	松 井 孝 治 (経済学部3年)	森 山 真 衣 (経済学部2年)	山 岡 早 希 菜 (経済学部2年)
清 下 萩 千 輝 (法学部3年)			
末 金 樹 奈 代 (文学部2年)			
友 部 祥 也 (経済学部3年)			
仁 科 慎 都 (経済学部4年)			
菱 田 貴 都 (総合政策学部3年)			
前 三 田 翔 一 (総合政策学部1年)			
三 村 上 皓 哉 (総合政策学部3年)			
渡 大 登 (総合政策学部3年)			

早稲田大学	
岩 本 めくみ (政治経済学部3年)	内 田 真 名 美 (政治経済学部4年)

※グループ編成にあたっては、同じ大学で固まらないことだけを条件としました。

### ジュニア・アカデミアとは

志のある大学生・大学院生を対象に、日本が直面する困難な課題に立ち向かう「中核的人材」を育成することを目的として設置されました。一方通行の講義ではなく、学生自身が主体となって学び、考えることを主眼としています。

校長	長谷川 閑史 (武田薬品工業取締役会長)	※所属・役職は開講当時
教頭	谷口 将紀 (東京大学教授)	
指導教授	菅根 泰教 (慶應義塾大学教授)	指導教授 野中 尚人 (学習院大学教授)
指導教授	田中 愛治 (早稲田大学教授)	指導教授 大島 美穂 (津田塾大学教授)

### 講義をいただいた各界の方々(2016年10月~2017年3月)

開校式	「日本そして世界の将来をリードして行く若者達へ」 長谷川 閑史・ジュニア・アカデミア校長・武田薬品工業取締役会長
第1回	「学ぶとはどういうことか」 佐々木 毅・日本アカデミア常任塾頭・元東京大学総長
第2回	「国際秩序転換期の日本外交」 細谷 雄一・慶應義塾大学教授
第3回	「『人の移動』と国際関係」 飯野 正子・日本アカデミア幹事・津田塾大学名誉教授・日米教育交流振興財団理事長
第4回	「世界経済三つの地殻変動と変化の尖兵としての日本」 西村 清彦・日本アカデミア幹事・東京大学教授
第5回	「高齢化に備える」 清家 篤・日本アカデミア共同塾頭・慶應義塾長
第6回	「アントレプレナーシップリーダーシップ」 金丸 恭文・日本アカデミア幹事・フューチャー取締役会長兼社長
第7回	「政策を考えるとはどういうことか」 松井 孝治・慶應義塾大学教授
第8回	「『働くことを軸とする安心社会』の実現に向けて／『働くこと』の政治哲学」 神津 里季生・日本アカデミア共同塾頭・連合会長 宇野 重規・日本アカデミア幹事・東京大学教授
第9回	「政治家を変えるために、あなたには何ができるか」 石破 茂・衆議院議員
最終講義	「明日の日本を担う君たちへー先輩から君たちへ贈る言葉ー」 茂木 友三郎・日本アカデミア常任塾頭・公益財団法人日本生産性本部会長

日本アカデミアは13日、「第2回ジュニア・アカデミア政策提言発表会」を東京赤坂のザ・キャピトルホテル東急で開催しました。今回は参加大学を前回の5大学から8大学へ拡大。44名の志ある学生が昨年10月から全11回に及ぶ各界の識者による対話型の講義の受講と並行して、大学混成の9つのグループに分かれ政策提言に取り組みました。提言作成にあたっては、既成の概念にとらわれず、若い世代の「思い」や「本音」を表現することを促した上で、内容についてはすべて学生たちの選択に委ねました。

牛尾賞は「ソフトパワー」グループが受賞。ジュニア・アカデミア賞(大賞)には、高等教育が重視される中で、幼児期の教育の重要性を主張し、幼保一体化を実現する「幼児学校」の創設と、幼児教育の実質無償化を提言した「教育改革グループ」が輝きました。

ジュニア・アカデミアが日本の未来をつくる。長谷川閑史校長は開会にあたりグループ編成やテーマの設定を「すべて学生自身の選択に委ねることについて」「自身と他者の関心領域のすり合わせ自体が、学びのプロセスである」と活動の狙いを紹介し、若い世代の感性で率直に意見を述べ、第2期活動を支えた。また、第2期活動を支えた。また、第2期活動を支えた。また、第2期活動を支えた。

茂木賞は「都市創生」グループが受賞。ジュニア・アカデミア賞(大賞)には、高等教育が重視される中で、幼児期の教育の重要性を主張し、幼保一体化を実現する「幼児学校」の創設と、幼児教育の実質無償化を提言した「教育改革グループ」が輝きました。



セクシュアル・マイノリティが抱える生きにくさを、一人ひとりが真剣に受け止める社会を目指したい!

マイノリティ問題グループ



日本の若者の意欲は低い。子ども達の自発的なやる気や想いを涵養できる社会を目指したい!

「誰もが『寄り道』できる社会」検討グループ



日中協調を基軸とする東アジアの安全保障体制を構築し、国際情勢の変化にしっかりと対応する国をつくる!

安全保障政策グループ



## 日本アカデミアについて

日本の政策を考える官民共通の基盤を再構築し、日本の公共を立て直すことを目的に、経済界、労働界、教育研究機関、学識者らにより2012年4月に設立されました。

常任塾頭	牛 尾 治 郎 (ウシオ電機取締役会長)	ウシオ電機取締役会長
常任塾頭	茂 木 友三郎 (キョウマン取締役名譽会長 取締役会議長)	キョウマン取締役名譽会長 取締役会議長
常任塾頭	佐々木 毅 (元東京大学総長・明るい選挙推進協会会長)	元東京大学総長・明るい選挙推進協会会長
共同塾頭	緒 方 貞 子 (元国際協力機構理事)	元国際協力機構理事
共同塾頭	鎌 田 薫 (早稲田大学総長)	早稲田大学総長
共同塾頭	神 津 里季生 (連合会長)	連合会長
共同塾頭	五 神 真 (東京大学総長)	東京大学総長
共同塾頭	清 家 篤 (慶應義塾長)	慶應義塾長
共同塾頭	吉 川 弘 之 (科学技術振興機構特別顧問)	科学技術振興機構特別顧問
共同塾頭	福 川 伸 次 (地球産業文化研究所顧問・東洋大学理事長)	地球産業文化研究所顧問・東洋大学理事長
役員委員長	菅 根 泰 教 (慶應義塾大学教授)	慶應義塾大学教授

および経済界から39幹事、労働界から6幹事、学識者から22幹事等により構成

### 主な活動

- 日本の将来に関する政治リーダーとの継続的な対話と合意形成  
政治リーダーの活動を支える環境を各界で整備するため、日本の長期ビジョンについて総理大臣や閣僚等との継続的な対話を行い、日本の改革に向けた合意形成を目指しています。
- 産官学による日本と世界の長期ビジョンの検討とネットワークの立て直し  
経済界、労働界、官界、学界の人的・知的ネットワークを立て直します。日本と世界の直面する基本的かつ重要な問題を取り上げ、垣根を越えた認識の共有化と問題解決に向けた検討を進めています。現在2つのグループで活動しています。「知と思想」グループ「グローバルリズムとデモクラシー〜帝国、経済、宗教、民族、IT、環境〜」「国家戦略と政策」グループ「国際経済秩序の今後〜制度と組織、貿易、通貨、金融をめぐって〜」
- 次世代の人材育成  
次の時代の日本を担う人材の育成を目指します。経済界、労働界、官界の垣根を越えて交流し、日本が抱える諸課題をともに議論し、知恵を出し合う場づくりを進めています。その一環として、志ある学生が主体的に学び、考え、政策提言を行うジュニア・アカデミアを運営しています。

日本アカデミアの事務局は、公益財団法人日本生産性本部に置いています。日本生産性本部は、産業界労働、学識者、消費者等の各界の代表者によって構成され、生産性運動を通じて、調和ある経済社会の持続的な発展と豊かな公正な社会の実現を目指して活動しています。各々の活動については各ホームページ(日本アカデミア <http://j-akademia.jp/>、日本生産性本部 <http://www.jpc-net.jp/>)をご覧ください。